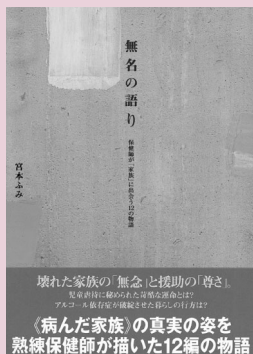


（地域看護活動の経験知が 集約された珠玉のテキスト）



無名の語り 保健師が「家族」に出会う 12 の物語

宮本ふみ 著 A5判・224 ページ

定価 1,890 円(本体 1,800 円+税 5%) ISBN978-4-260-00352-0 医学書院 2006

評者

三輪恭子

淀川キリスト教病院

「彼女の人生は何のためにあったのか。その答え
ようなない問いに憤っていたあの頃から、私は一向
に成熟していない」——新人保健師時代のある家族
との出会いを回顧し、著者は呟く。彼女が見つめる
のは、病を抱え市井にひっそりと暮らす人々の生活
だ。

本書は一人の保健師の実践録であるばかりではな
く、複合する問題に苦悶する家族の痛切な叫びでも
ある。深刻な障害を背負った3人の息子を持ち自ら
も難病を発病した母の悲運、スモンと認定され国の
補償を頼りに生活し自分を肯定する機会すら見出せ
なかった生涯を送る孤独な老人の無念、アルコール
問題を持つ父親と崩壊していく家族が抱える苦悩。
著者は背景にある家族の問題や社会病理を鋭く洞察
する一方で、苛酷な状況に陥った人々の「語り」にた
だひたすら耳を傾ける。人が自分の物語を紡ぐこと
によって、その苦しみを自分の身から剥がす作業を
助けるのである。

ここで紹介される12編の物語は、決して特異な
ケースばかりではない。インタビュー面接での技法や、
医療機関や福祉職のみならず、学校や近隣の人々、
時には宗教者も巻き込みネットワークを構築し協働
する手法など、随所に保健師活動の真髄が散りばめ
られ、地域看護を志す学生や悩める実践者にとって

うってつけのテキストとなっている。時にいかんと
もしがたい壁の前に立ちすくみ、しかし何とか解決
の糸口を見つけ出そうと自問自答を繰り返しながら
進んでいく著者の姿には深い共感を覚える。また、
「保健師は終着駅に導く機関車の運転士のような存
在ではない。慣れぬ旅先で待機している水先案内人
であり、渡り舟の船頭であろう」「その人の回復を信
じて待つというあり方は、何かを具体的に提示した
り方向性を指示したりすることよりも、多くの心的
エネルギーを要する作業である」など、示唆に富む
指摘も多い。

経験のなかで培われた対象との距離のとり方も絶
妙だ。自己犠牲的に入れ込み過ぎて相手の依存心を
引き出すことは好ましくないが、相互の信頼に基づ
く人間関係が築けなくては援助が成り立たない。相
手の持つ力を見極め、保健師として何をすべきかを
熟考する。時に病と共にひっそりと暮らしていける
ことが確認できれば静かにフェードアウトし、時に
チャンスと見れば一気に接近する。地域で生活する
人々との、気が遠くなるほど長期にわたる援助関係
のなかで、気長に、一つひとつ丁寧に粘り強く問題
に対処していく基本的な援助姿勢の大切さを、読者
は改めて思い知る。

本書は著者の遺稿となった。彼女は地域看護活動
の可能性や克服すべき課題にも言及している。評者
は地域看護に携わる一人として、身の引き締まる思
いをし、新たな闘志をかき立てられた。

■ご購入は、最寄の医書専門店または医学書院販売部 電話(03)3817-5657(直通)まで。
ホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp>)からもお申し込みいただけます。